

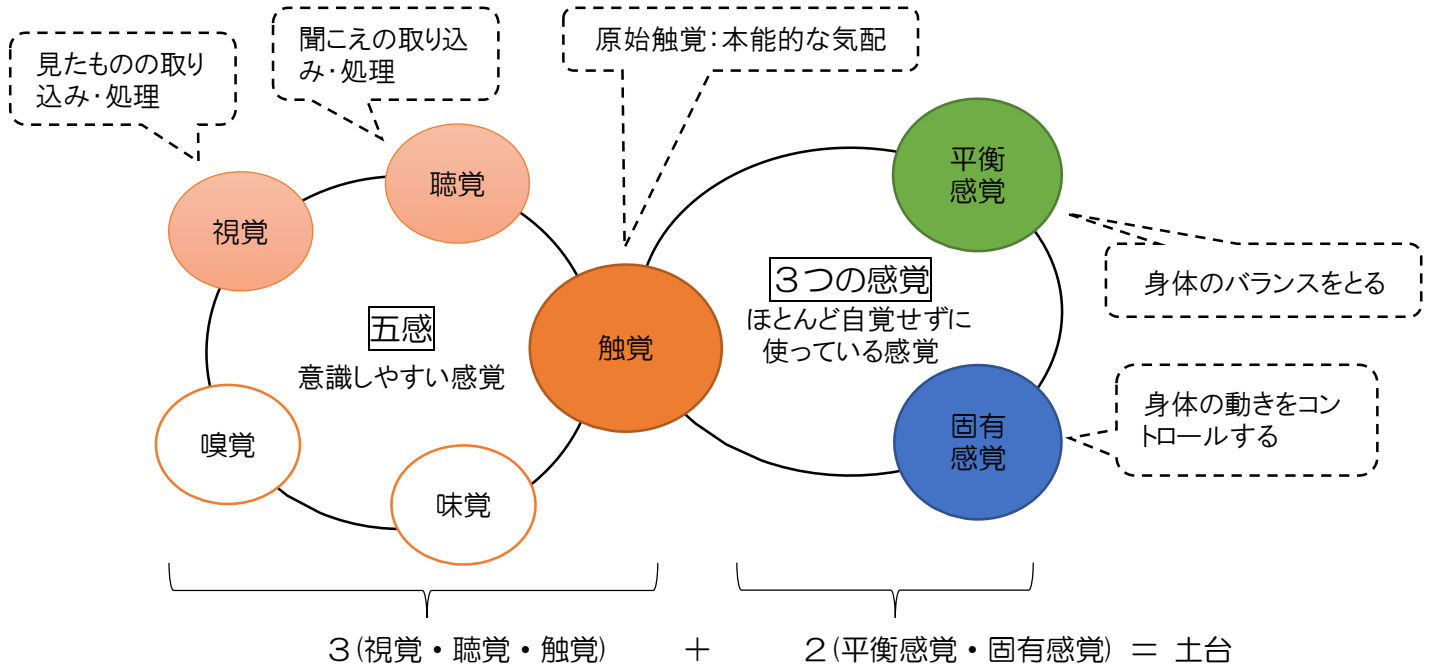
# 感覚の個人差

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成30年 1月16日(水)

地支セン通信 No. 17

## 見えにくい「3+2」の感覚



※それぞれの感覚については、今後の「地支セン通信」でお知らせする予定です。

感覚の受け止め方の違いが、人の個性や能力の発揮に結び付いていくことがあります。子どものつまずきも、そんな個性の一つと捉え、理解していくことが大切です。

### 子どものつまずきを招く、感覚のアンバランス

例)「牛乳パックからストローで牛乳を飲む」

**固有感覚**が鈍感

→力の入れ方の微調整ができないため、パックを強く握りしめて中身を噴きださせてしまう。

パックを持つ力が不十分で落としてしまう。

**触覚**が敏感

→牛乳にある粘性が苦手で、牛乳を飲むという行為そのものを

拒否する。牛乳が嫌いなわけではなく、ストローの感触が苦手、パックのにおいが苦手で飲むことができない。



このように、同じように見える行動でも理由は何通りも考えられます。いくつもの「感覚のアンバランス」が絡み合っていることもあります。

見えにくい「3+2」の感覚について知ることで、子どもの姿を観察する際に、多方面からのつまずきの背景が見えてきます。

参考文献及び図の引用 「発達の気になる子の感覚統合あそび」 川上康則 監修

